

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。


チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	グループホーム 山田の里 1F
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県鹿児島市
記入者名 (管理者)	永田妙子(管理者)
記入日	平成 22 年 3 月 10 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	全職員で、地域密着型サービスの意義を理解確認し、ホーム独自の理念を作り反映させている		開設して3月で4年になったので、理念の見直しをしたいと考えている
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々のサービス提供場面において、理念が反映されるように常に取り組んでいる		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族の方には、毎月のホーム便りを活用してお伝えしている。又家族会やホームの行事の時にも、折に触れて話している。運営推進会議の時にも、ホームの取り組みを伝えている		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	町内会に入って色々な行事に参加している。散歩時には気軽に挨拶をかけてもらっている。又、野菜や季節の果物等を届けて貰っている		隣近所の方々から協力いただいているので、今後も良い関係を築いていきたい。隣近所の方が困っておられる時には手助けをしたい
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事の参加している		文化祭、校区運動会の見学

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の小学校の運動会や文化祭等に見学に行き、子供達とのふれあいの機会を作っている。又、保育園、高校生のボランティアも受け入れている		高校生の職場体験を受け入れている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎年、外部評価を受けることにより、全職員が自己評価を行い、意義目的を深めている。外部評価の結果は、ミーティングで報告し、改善するようにしている		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を行い、外部評価の結果を公表し改善報告等をおこなっている		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村の介護職員の受け入れはある。又、運営推進会議に地域包括支援センターや消防署の職員の方々にも参加していただいている		市町村のネットワーク作りにも協力したい
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は、研修などに出席している。又、職員会議のうちに報告している		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修会に出席している。又、参加出来なかった職員には、勉強会を実施し、理解を深めるようにしている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に、利用者及び家族には話をして説明し同意を得ている。又、入院された時にも、不安を抱かれたりする時もあるので、その都度説明している。ご本人、ご家族が安心してサービスを受けられるように支援している。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様とは、常になんでも言える様な関係作りをしている。市町村からの介護相談員も受け入れ、入居者の方々の意見も聞けるようにしている	ご家族様が気軽に意見が言えるような関係作りをしている
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回の山田の里便りを出している。担当者のコメント等も記載している。体調不良時はその都度、電話報告している、金銭管理の面では、個人の出納帳を作り面会時に説明しサインをもらっている	毎月の行事の様子を写真に撮り、リビングに飾ったりしている
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や運営推進会議等で、いろいろな意見をいただいている。内容等は職員で話し合い運営に反映させている	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日常生活の会話の中で、職員の意見や提案を聞き施設長と随意連絡報告相談し、反映されるようにしている	職員の要望や意見、不満、苦情等も言える雰囲気作りを目指したい
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員一丸となって努めている	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニットの職員は、固定しながら全利用者との馴染みの関係を作れるように配慮している。合同での行事を催したりして馴染みの関係を作っている	ホーム内では、時々合同で行事をおこなっているが、入居者の方々からの意見で合同で、戸外レクリエーションに行きたいとの声があるので、今年は実施できるようにしたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は、可能な限り受ける様にしている。外部研修を受けた職員から他の職員への内部研修を行っている。又、毎月1回、勉強会を開催している	定期的に文献購読をしている
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県、市の連絡協議会にも入り、質の向上に努めている。又、地域のグループホームの連絡会があり、勉強会を開始しているので参加して質の向上に繋げている。	今後お互いに協力して続けていきたい
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日常的に職員のストレスや悩みを把握するように努めている。職員の勤務体制にも配慮している。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	資格取得を勧め足り、各自が向上心を持って働けるよう努めている	色々な勉強会等の情報収集したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相性生を見つけ、不安等をしっかり聞けるよう話し合いを設ける	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面会時や、毎月の便り、電話等で話し合いを設けている	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	意見交換し、適切なサービス提供が出来るよう努めている		訪問看護センターや居宅支援事業者とも、定期的に連絡をとり空き状況を連絡して早急な対応が出来るようにしている。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居申し込みの際、自宅や病院を訪問し面接したり、体験の機会を設けたり徐々に馴染めるよう家族と相談しながら工夫している		早急な入居希望の場合には、何度も本人様との面会をもったり家族との話し合いをして入居に繋げている。
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の思いに寄り添う気持ちで接して、行事等の調理の工夫など教えてもらったり、お互い支えあう関係を築いている		利用者の希望を聞いて個別ケアにて、自宅周辺散策や墓参りなどしている。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事の参加やお便り等で、家族を交えての交流を大切にしている		月1回の戸外レクリエーションやホーム内の行事等にも、家族の方々にも参加していただいている
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の相談、利用者の相談等を設けより良い関係が築いていけるよう心がけている		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	他の施設の方々や、同じ宗教の方々の訪問が気軽にできたり、又、ホームのイベントに多くの家族の方々が参加したくたさるようになっている。		昔のお友達の方々も、訪問していただけるように家族の方々とも連絡を取り合っって馴染みの関係が薄くならないようにもっていききたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	円滑に回れるよう、注意して利用者同士が関わり合い出来る様つとめている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	お互いの気持ちが断ち切れないうち、気楽に立ちよえる様努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族や関係者から情報を聞いたり、本人の気持ちを尊重した取り組みを行っている		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のアセスメントツールを、家族、本人、職員と共に取り組みその方の生活環境を把握出きるように努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	カンファレンス等の職員の意見交換しながら支援に努めている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日頃のかかわりあいの中から本人の思いや意見等を聞きだしている。又、家族の要望も聞き、スタッフ全員で意見交換等をおこない介護計画に繋がるようにしている。		主治医や訪問看護師の方々の意見も取り入れていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎日の生活の中から介護計画を見直したりしている。職員や主治医、家族、訪問看護師等の情報等を基にして見直しをおこなっている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎朝の申し送り時や、カンファレンス等で意見交換し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている		介護計画に沿って評価を充実させたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業関係グループの病院及び訪問看護センター等と連絡を取りながらその時々々の要望に応じる体制をとっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議には、年2回消防署の方々にも参加いただき救急蘇生法等の講習をしていただいている。今後も地域資源をフルに活用して協力を得ながら繋がりを持って支援している。学校の職場体験や保育園の慰問等も受けている。		今後も中学生、高校生の職場体験を受け入れたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	同グループの訪問看護センター等を利用している。又、訪問美容、訪問鍼灸等の利用もしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議にも、出席をお願いし地域包括支援センターの方々にも協力を頂いている。		地域包括支援センターの方々にも、毎回出席して下さるように日程の調整をしたい
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者の希望する主治医や協力病院の受診を受けている。月2回の往診や疾患別による病院受診等適切な医療を受けている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		今後もお互いに協力し続けていく。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		入居者の方々の高齢化が進んでいるため、終末期の対応も必要になってきている。今後も、家族、主治医とも話し合い、その都度対応していきたい。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	介護日誌、業務日誌等の記録の保管場所を取り決め、個人情報の取り扱いに配慮している。	毎月の職員会議やカンファレンスの折に意識向上を図るようにする。入居者のプライバシーに配慮した言葉かけをしていきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	声掛けをして、本人の思いを聞いたり分かる力に合わせた説明を行い本人に決めて頂き納得しながら暮らせるよう支援している	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の気持を優先しながら、楽しみが持てるように支援している。	娯楽を好まれる方がいるので、ボランティア等を取り入れていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の思いに添えるよう努力している	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に食事を作ったり、じゃがいもの皮むきを手伝って頂いたり、食事をしたり、一人一人の好みを聞いて楽しく食事が出来る様支援している	外食の機会を月1回、おこなっているが今後も家族、入居者の意向を取り入れて機会を増やしたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物、おやつ等、好みを聞いてなるべく取り入れるよう努力している	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄の失敗時は回りに配慮したり、排泄のパターンを見極めトイレへの声掛け誘導に心がけている		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一応の曜日設定を行っているが、拒否されたりした場合には、時間をおいて、声掛けしたりタイミングを見計らって入浴してもらっている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	出来るだけ、日中は家事活動や散歩、レクリエーション等に参加していただき生活リズムを整えるように努めている。入居者の体調に合わせて昼食後は1~2時間、ゆっくりと休息がとれるように支援している。夜間帯に、眠れない方がいる時にはゆっくりと話を聞いたり添い寝したりする。		家族の協力も得て温泉にも連れていきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	モップ掛け、洗濯たたみ、花の手入れ、カラオケ、外出など一人ずつの楽しみを見つけ出し、気晴らしの支援をしている		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て少額のお金を持っている人もいる。家族よりお金を預かりホームで管理している方が多い。利用者の希望により職員と一緒に買い物を楽しまれている方もいる。		戸外レクリエーションに出かけた時には、お土産を買うことを楽しみにされている方もいるので、家族の了解を得て、今後も支援したいと思う。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や入居者の体調を見ながら、希望を聞いて散歩や買い物、ドライブ等に心がけている		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個別ケアにて、本人の希望を聞き、希望に添ったケアに努め楽しみが持てるよう支援している		カラオケに行きたいと言われる入居者がいるので、出かけてみたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の方が電話をかけたいと希望があれば、いつでもかけてあげるよう支援している。手紙や葉書等を家族の方に出したいと言われた時には、一緒に葉書を買に行ったりしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも面会に来れたり、家族、友人の訪問時はゆっくり会話が出来る様、工夫している		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の勉強会や日々の申し送り時等でも、言葉の拘束や身体拘束等もしないようにしている。		今後も全職員の意識を高めるようににする。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の見守りのの方法を徹底し、ひとり一人のその日の気分や行動を細かく把握する事で、日中は鍵をかけずに自由に生活出来る様に支援している。入居者の方が、外に行かれるような気配の時には、察知して、一緒に散歩に出かけるなどしている。やむを得ず鍵をかけている時もある。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中、ホールで過ごされている方へは一緒に家事や談話を行い、居室で過ごされている方には、プライバシーに配慮しながら見守りを行っている。夜間帯は定期的に訪室し、入居者の安全に配慮している。日中、夜間帯も必ずリビングに職員が居るようにしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	全てを取り除くのではなく、入居者の状況を把握して注意が必要な物品等は、入居者の目の届かないところに保管する等し危険を省いている。また、洗剤等は手の届きにくい所にしまっている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日々のヒヤリハットを記録し、勉強会の時にも取り上げて職員の共有認識を図っている。事故が発生した場合には、速やかに事故報告書を作成し、未然に事故を防ぐ事が出来るように検討会を行っている。		事故報告書やヒヤリハットを活用し予防につなげる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	事故発生、緊急時の対応手順、又、心肺蘇生法の勉強会を行っている		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署の協力を得て、避難訓練、消化訓練、非難経路の確認を、利用者及び家族の方も参加していただいております。運営推進会議でも地域の方へも協力をお願いしている。		『夜間』想定での避難訓練等も取り組んでいきたい。非情食の準備はしている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	話し合いをしています		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々の体調の変化や異変は早急に対処し、医療機関へ連絡して、対応に結び付けている		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報つづりを作成し、処方箋が新しくなった時には入れ替えている。服薬時には、本人に手渡し服用していただくようにしている。		月2回の訪問診療時には、情報提供書を主治医に渡している。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維質の多い食材や手作りのヨーグルトを取り入れている。散歩や家事活動、体操等を動かす機会を適度に設けて、便できるように取り組んでいる。健康管理表で、個々のチェック確認をし水分摂取量の調整をおこなっている。		便秘防止にヨーグルト、繊維食品の摂取の心がけている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きの声掛けをおこない、利用者の力に応じて職員が見守ったり、介助をおこなっている。就寝前は義歯洗浄、除菌等も行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事摂取量を健康管理に記録している。利用者の嗜好を把握し、献立に採り入れるようにしている。		手作りおやつをもっと作りたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症に関して情報収集を行い、取り決めを作り、早期発見、早期対応に努めている。また、利用者及び家族に同意をいただき、肺炎、インフルエンザ予防接種を受けている。手洗い、うがいの遂行にも努めている。		週1回のリネン交換 インフルエンザワクチン接種 『入居者、職員』
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板毎晩、漂白している。布巾等はその都度洗濯している。冷蔵庫内も点検や掃除をおこない、食材の賞味期限等も確認している。台所水回りも清潔を保つように職員で取り決めている。又、ペーパータオルを使用し注意している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	門も開放し、玄関周りは花を植えて親しみやすく、出入り出来る様工夫している		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭を囲み廊下と広いホームがあり、明るい共同空間となっている。畳やソファアが置かれ、くつろげる雰囲気と居心地良く過ごせる工夫している		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間で、気の合った方々は他者の気配を感じながらも、楽しく過ごされるようにソファや椅子、テーブル等を囲んで話をされている。又、個々の状態にあった居場所や環境作り心がけている。		トイレはこまめにチェックし、気持ちよく使えるように配慮している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドとタンスは施設側で準備したものではあるが、本人が使い慣れた鏡台や椅子等を用意されている方もいる。又、家族の写真を飾ったりお位牌も持ち込まれて心和ませる事が出来る様にしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	空気の入換えや、湿度調節は常に意識して行っている。入居者の体調に合わせた温度調節をしている。		トイレは消臭剤を使用し、悪臭が出ないように工夫している。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転ばないように、足元に注意したり、歩行器、車いすの配置に注意をはらっている		洗濯物等を干してくださる方が居るので、その方の使いやすい高さに合わせている。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりの状態に合った出来る分野を探して、自信が持てるよう工夫している		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関スペースには、プランターや鉢花等を置き利用者の方と一緒に水撒きなどが、できるように工夫している。又、裏庭で季節の花々や野菜を作りを楽しんでいる。		庭の草取りを入居者の方としている。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

日々の生活の中では、理念に沿って全職員が一貫となり共有しその人らしい、ゆとりある生活が送れる様に支援している。入居者の方々や家族の方々からも、安心、信頼が持てる様日々、努力し、家族を交えての交流も大切にし一人一人の思いや意向を大切にしている。今後も全職員が、研修、勉強会等に参加しながら質の向上を目指し努力したい。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。


チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	グループホーム山田の里 2F
所在地 (県・市町村名)	鹿児島市
記入者名 (管理者)	永田妙子
記入日	平成 22 年 3 月 10 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↓ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	○	開設して3月で4年になったので、理念の見直しをしたいと考えている。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>		ご家族の方には、毎月のホーム便りを活用してお伝えしている。又、家族会やホームの行事の時にも、折に触れて話している。運営推進会議の時にも、ホームの取り組みを伝えている。
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	○	隣近所の方々から協力をいただいているので、今後も良い関係を築いていきたい。隣近所の方が困っておられる時には手助けをしたい。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	○	文化祭、校区運動会の見学

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の小学校の運動会や文化祭等に見学に行き、子供達とのふれあいの機会を作っている。又、保育園、高校生のボランティアも受け入れている。	○	高校生の職場体験を受け入れている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎年、外部評価を受けることにより、全職員が自己評価を行い、意義、目的を深めている。外部評価の結果は、ミーティングで報告し、改善するようにしている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を行い、外部評価の結果を公表し改善報告等をおこなっている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村の介護相談員の受け入れはある。又、運営推進会議に地域包括支援センターや消防署の職員の方々にも参加していただいている。	○	市町村のネットワーク作りにも協力したい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は、研修などに出席している。又、職員会議のうちに報告している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修会に出席している。又、参加出来なかった職員には、勉強会を実施し、理解を深めるようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に、利用者及び家族には話をして説明し同意を得ている。又、入院された時にも、不安を抱かれたりする時もあるので、その都度説明している。ご本人、ご家族が安心してサービスを受けられるように支援している。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	○ ご家族様とは、常になんでも言える様な関係作りをしている。市町村からの介護相談員も受け入れ、入居者の方々の意見も聞けるようにしている。	ご家族様が気軽に意見が言えるような関係作りをしている。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	○ 月1回の山田の里便りを出している。その中に、担当者、ケアマネジャーからのコメント等も記載している。体調不良時はその都度、電話報告している。金銭管理の面では、個人の出納帳を作り面会時に説明しサインをもらっている。	○ 毎月の行事の様子を写真に撮り、リビングに飾ったりしている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や運営推進会議等で、いろいろな意見をいただいている。内容等は職員で話し合い運営に反映させている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	○ 管理者は日常生活の会話の中で、職員の意見や提案を聞き施設長と随意連絡報告相談し、反映させるようにしている。	○ 職員の要望や意見、不満、苦情等も言える雰囲気作りを目指したい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の状況により、勤務体制は考えて勤務を作成している。例えば、訪問診療時や家族会及び戸外レクリエーション時には、4名～5名体制で対応している。又、突発的な時にも柔軟な対応が出来るように、かねてより話し合いをしている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	○ ユニットの職員は、固定しながら全利用者との馴染みの関係を作れるように配慮している。合同での行事を催したりして馴染みの関係を作っている。	○ ホーム内では、時々合同で行事をおこなっているが、入居者の方々からの意見で合同で、戸外レクリエーションに行きたいとの声があるので、今年は実施できるようにしたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
ぎょうじ				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は、可能な限り受ける様にしている。外部研修を受けた職員から他の職員への内部研修を行なっている。又、毎月1回、勉強会を開催している。	○	定期的に文献購読をしている。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県、市の連絡協議会にも入り、質の向上に努めている。又、地域のグループホームの連絡会があり、勉強会を開催しているので参加して質の向上に繋げている。	○	今後お互いに協力して続けていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日常的に職員のストレスや悩みを把握するように努めている。職員の勤務体制にも配慮している。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各職員が向上心を持ち資格習得に向けた支援をおこなっている。	○	色々な勉強会等の情報収集をしたい。
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居希望時の面談から利用に至るまでに、本人様や家族が困っている事や不安なこと、親身になって聞くようにしている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の立場に立って困っている事等を、なんでも相談していただける様な信頼関係作りをし、家族の方が安心してサービス利用に繋がるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様やご家族が今、必要としているサービスは無いかを見極め、他事業所等に連絡相談し、紹介するなどの対応もしている。	○	訪問看護センターや居宅支援事業者とも、定期的に連絡を取り空き状況を連絡して早急な対応が出来るようにしている。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、家族の方が施設見学や体験入居を通して、納得、安心してサービス利用が出来るようにしている。	○	早急な入居希望の場合には、何度も本人様との面会を持ったり家族との話し合いをして入居に繋げている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者のこれまで歩んで来られた中で、喜び、悲しみ、苦しみを知った上で、共感しながら一緒に生活が出来るようにしている。又、人生の先輩として季節の行事等を教えていただき、利用者と職員という垣根を越えた親子のように接し、穏やかな生活をおくる事が出来るようにしている。	○	利用者の希望にて、年2～3回位自宅訪問や墓参り等をしている。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族の方々ともお互いの立場を超えた関係を築いている。ホームでの行事等にも参加していただき、一緒に入居者の方を支えていく関係を築いている。家族の方々の相談にも対応している。	○	月1回の戸外レクリエーションやホーム内の行事等にも、家族の方々にも参加していただいている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	日頃の状況をこまめに報告したり相談したりし又、ホームの行事等にも参加していただき、よりよい関係を築いていけるように支援している。疎遠がちな家族の方には、ケアプランの中にサービスを挙げてより良い関係が築けるようにしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の方々が高齢になっているので、お友達の訪問はないがホームの行事等に、出来るだけ多くの家族の方が参加して下さるようにしている。	○	昔のお友達の方々も、訪問していただくように家族の方々とも連絡を取り合って馴染みの関係が薄くならないようにもっていききたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	男性入居者の割合が多いので、トラブル等がおこらないようにみんなで楽しく過ごす事ができるように見守っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去された方々に対しても、家族からの継続的な相談にも対応している。退去された後にも利用者の方と一緒に面会に行くようにしている。入院された時にも定期的に面会に行き、家族の方々の相談も受け入れている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様との何気ない会話の中から、本人様の真意や意向等を、はかることが出来るようにしている。意思疎通できない入居者様とはご家族を通じて本人本位の支援が出来るように努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のアセスメントツールを、家族、本人、職員と共に取り組みその方の生活環境を把握出来るように努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日常の会話の中から、その方々の生活リズムを聞き取る様に努めている。スタッフ間では、申し送りノートをや業務日誌等を活用し、その方を全体的に把握出来るように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日頃のかかわりあいの中から本人の思いや意見等を聞き出している。又、家族の要望も聞き、スタッフ全員で意見交換等をおこない介護計画に繋がるようにしている。	○	主治医や訪問看護師の方々の意見も取り入れていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎日の生活の中から介護計画を見直したりしている。職員や主治医、家族、訪問看護師等の情報等を基にして見直しをおこなっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや入居者の状態変化は、個々のケア記録に記入し、職員間の情報を共有することに努めている。特別な申し送り事項等は申し送りノートを活用している。又、個別記録を基に介護計画の見直しをし、評価に活かしている。	○	介護計画に沿って評価を充実させたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業関係グループの病院及び訪問看護センター等と連携を取りながらその時々々の要望に応じる体制をとっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議には、年2回消防署の方々にも参加いただき救急蘇生法等の講習をしていただいている。今後も地域資源をフルに活用して協力を得ながら繋がりを持って支援している。学校の職場体験や保育園の慰問等も受けている。	○	今後も中学生、高校生の職場体験を受け入れたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	同グループの訪問看護センター等を利用している。又、訪問美容、訪問鍼灸等の利用もしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議にも、出席をお願いし地域包括支援センターの方々にも協力を頂いている。	○	地域包括支援センターの方々にも、毎回出席して下さるように日程の調整をしたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医や利用前からの、かかりつけ医での医療を受けられるようにしている。月2回訪問診療をおこなっている。又、通院介助等もとの都度おこなっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	今後もお互いに協力し続けていく。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	入居者の方々の高齢化が進んでいるため、終末期の対応も必要になってきている。今後も、家族、主治医とも話し合い、その都度対応していきたい。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	介護日誌、業務日誌等の記録の保管場所を取り決め、個人情報の取り扱いに配慮している。	○ 毎月の職員会議やカンファレンスの折に意識向上を図るようにする。入居者のプライバシーに配慮した言葉かけをしていきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人にわかりやすい言葉かけをしている。又、難聴の方々には、筆談等を取り入れてその方の思いや希望等を聞くように努めている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、一人一人が自由に自分らしく生活が、出来るように支援している。	○ 碁や麻雀をしたいと言われる方がいるので、ボランティア等を取り入れていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	定期的に訪問美容を利用し身だしなみに気をつけている。又、朝の着替えは、基本的に本人様の意向で決めているが、必要な時には手伝うようにしている。外出時にはお化粧をされたりして出かけている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者 と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食の献立を紹介して、職員も同じテーブルで楽しく食べている。買い物や野菜の下こしらえ等をは手伝ってもらっている。季節の行事等の料理等は、利用者からもヒントをもらっている。片付け等が出来る方には手伝いをしてもらっている。	○ 外食の機会を月1回、おこなっているが今後も家族、入居者の意向を取り入れて機会を増やしたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	1週間に1回は、夕食時に食前酒の日を設けている。お茶の時間や昼食後にはコーヒータイム等をとっている。(手作りのスモモ酒、梅酒等)	○ 今後も続けたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるように支援している	個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導や声かけをさりげなくおこなっている。失敗された時には、さりげなく着替え等をおこなっている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一応の曜日設定を行っているが、拒否されたりした場合には時間をおいて、声かけをしたりタイミングを見計らって入浴してもらっている。	○	家族の協力も得て温泉にも連れて行きたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	出来るだけ、日中は家事活動や散歩、レクリエーション等に参加していただき生活リズムを整えるように努めている。入居者の体調に合わせて昼食後は1～2時間、ゆっくりと休息がとれる様に支援している。夜間帯に、眠れない方がいる時にはゆっくりと話を聞いたり添い寝したりする。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	モップかけ、洗濯物たたみ、下善等、出来る事得意とされている事は、お願いしている。その後は必ず、感謝の言葉を伝えるようにしている。月1回の戸外レクリエーションに、家族の方にも参加していただき外食等にも出かけている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て少額のお金を持っている人もいる。家族よりお金を預かりホームで管理している方が多い。利用者の希望により職員と一緒に買い物を楽しまれている方もいる。	○	戸外レクリエーションに出かけた時には、お土産を買う事を楽しみにされている方もいるので、家族の了解を得て今後も支援したいと思う。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気、本人の気分や希望に応じて散歩やスーパー等への買い物にも行っている。又、月1回は、家族の方々へも協力を得て外食に行ったりしている。外食会には家族の方も参加されている。今後も積極的に戸外へ出ることが出来るように支援したいと思う。	○	カラオケに行きたいと言われる入居者がいるので、出かけてみたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	「家に帰りたい」「墓参りに帰ってみたい」「温泉に行きたい」等の利用者の思いがあった時には、家族と相談して職員の勤務調整を行い実現するようにしている。又、利用者の方が行きたいと思う場所への外出は個別ケアとして1ヶ月に1回位は、計画を立ておこなっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の方が電話をかけたいと希望があれば、いつでもかけてあげるように支援している。手紙や葉書等を家族の方に出したいと言われた時には、一緒に葉書を買に行ったりしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時間等は設けておらず、仕事帰りやご家族の都合の良い時間に、いつでも訊ねてきていただけるように配慮している。他の利用者に気兼ねなく殆どが、ご本人様の居室で過ごされる事が多い。その時には、必ず茶菓を出している。又、家族の方が一緒にホーム周辺を散歩されたりしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の勉強会等や日々の申し送り時等でも、言葉の拘束や身体拘束等をしないようにしている。	○	今後も全職員の意識を高めるようにする。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の見守りの方法を徹底し、ひとり一人のその日の気分や言動を細かく把握することで、日中は鍵をかけずに自由に生活出来る様に支援している。入居者の方が、外に行かれるような気配の時には、察知して一緒に散歩に出かけるなどしている。やむを得ず鍵をかけている時もある。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中、ホールで過ごされている方へは一緒に家事や談話を行い、居室で過ごされている方には、プライバシーに配慮しながら見守りを行なっている。夜間帯は定期的に訪室し、入居者の安全に配慮している。日中、夜間帯も必ずリビングに職員が居るようにしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	全てを取り除くのではなく、入居者の状況を把握して注意が必要な物品等は、入居者の目の届かない所に保管する等し危険を防いでいる。又、洗剤等は手の届きにくい所にしまっている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日々のひやりハットを記録し、勉強会等の時にも取り上げて職員の共有認識を図っている。事故が発生した場合には、速やかに事故報告書を作成し、未然に事故を防ぐ事が出来るように検討会をおこなっている。	○	事故報告書やヒヤリハットを活用し予防につなげる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年に2回、消防署の協力を得て、救急手当や蘇生術、AEDの使い方等の研修を実施し、全ての職員が対応できるようにしている。緊急時対応のマニュアルも作成している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、消防署の協力を経て避難訓練、消火訓練、避難経路の確認を、利用者及び家族の方も参加していただいております。運営推進会議でも地域の方への協力をお願いしている。	○	「夜間」想定での避難訓練等も取り組んでいきたい。非常食の準備はしている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者一人一人に起こりうるリスクについて、家族の方々にも具体的に説明している。又、その方に合わせて対応策等も、家族の方を交えて話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調変化や些細な表情も見逃さないようにしている。体調変化時には、早期に医療受診につなげている。朝夕の引継ぎ時に情報共有の徹底している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報つづりを作成し、処方箋が新しくなった時には入れ替えている。服薬時には、本人に手渡し服用していただくようにしている。誤薬防止に努めている。	○	月2回の訪問診療時には、情報提供書を主治医に渡している。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維質の多い食材や手作りのヨーグルトを採り入れている。散歩や家事活動、体操等からだを動かす機会を適度に設けて、自然排便できるように取り組んでいる。健康管理表で、個々のチェック確認をし水分摂取量の調整をおこなっている。	○	便秘防止にヨーグルト、繊維食品の摂取に心がけている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きの声かけをおこない、利用者の力に応じて職員が見守ったり、介助をおこなっている。就寝前は義歯洗浄、除菌等も行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事摂取量を健康管理表に記録している。利用者の嗜好を把握し、献立に採り入れるようにしている。	○	手作りおやつをもっと作りたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症に関して情報収集を行い、取り決めを作り、早期発見、早期対応に努めている。また、利用者及び家族に同意をいただき、肺炎、インフルエンザ予防接種を受けている。職員もインフルエンザの予防接種を受けている。手洗い、うがいの励行にも努めている。	○	・週1回のリネン交換 ・インフルエンザワクチン接種 (入居者、職員)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板は毎晩、漂白している。布巾等はその都度洗濯している。冷蔵庫内も点検や掃除をおこない、食材の賞味期限等も確認している。台所水回りも清潔に保つように職員で取り決めている。又、ペーパータオルを使用し注意している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関回りには、植栽がしてあったりプランターに利用者と、一緒に植えた季節の花々で暖かい雰囲気になるように工夫している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング・ベランダには、季節を感じさせる花々を飾ったりしている。共有のスペースについては、戸外レクリエーションに出かけた時等の写真を飾り、入居者、職員と一緒に眺めたりして思い出話をしたりしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間で、気の合った方々は他者の気配を感じながらも、楽しく過ごされるようにソファーや椅子、テーブル等を囲んで話をされている。又、個々の状態にあった居場所や環境作りに心がけている。	○	トイレはこまめにチェックし、気持ちよく使えるように配慮している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドとタンスは施設側で準備したものではあるが、本人が使い慣れた鏡台や椅子等を用意されている方もいる。又、家族の写真を飾ったりお位牌等も持ち込まれて折心を和ませる事が出来るようにしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	空気の入換えや、湿度調節は常に意識して行っている。入居者の体調に合わせた温度調節をしている。	○	トイレは消臭剤を使用し、悪臭が出ないように工夫している。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の身体状態に合わせて、トイレ、廊下、浴室等には手すり等を安全確保と自立の配慮をしている。	○	洗濯物等を干してくださる方が居るので、その方の使いやすい高さに合わせている。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人一人の出来る力を見出す事が出来るように工夫している。混乱や行動失敗が無いように、不安材料を取り除くように心がけている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関スペースには、プランターや鉢花等を置き利用者の方と一緒に水撒きなどが、できるように工夫している。又、裏庭で季節の花々や野菜作りを楽しんでいる。	○	庭の草取りを入居者の方としている。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

月1回の、戸外レクリエーションを実施しており、毎回半数以上の家族の方々の参加され「次回はどこに行きますか？」等ととても楽しみにされております。又、毎月、個別でのお出かけなども実施しています。(本人様の行きたい所又は、お買い物や外食等)季節の野菜を豊富に取り入れ調理している。ご家族より、ホームに入居され顔色が良くなり元気になったと話されています。